

尾花沢市環境基本計画概要版

1 計画改定の趣旨・目的

市では、平成10（1998）年に策定した尾花沢市環境基本計画を平成23（2011）年3月に改定し、望ましい環境の将来像の実現を目指して環境施策を推進してきました。計画の改定から11年が経過する中で、地球温暖化が原因と見られる気候変動の影響に対する国内外の情勢を踏まえ、本市においても令和3（2021）年5月に「尾花沢市ゼロカーボンシティ」を宣言しました。

今後は、ゼロカーボンシティの実現に向けて、省エネルギーへの取り組みや再生可能エネルギーの活用と地産地消に向けた取り組みをさらに推進し、これまで以上に環境施策に積極的に取り組んでいくため、「尾花沢市第7次総合振興計画」との整合性を図りながら、環境基本計画の改定を行うものです。

2 計画の期間

本計画は、令和4（2022）年を初年度とし、目標年度を令和13（2031）年度とする10年間の計画とします。

令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9	令和10	令和11	令和12	令和13
2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031

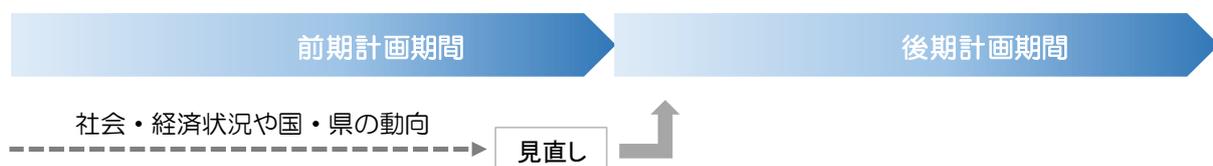


図 計画期間

3 計画のテーマ

本市は、美しく広大な森林と清らかな川の流れる恵まれた豊かな自然環境によって支えられており、この恩恵を永続的に享受できるよう、今後も自然環境の保全活動に取り組みます。また、地球温暖化対策に積極的に取り組み、ゼロカーボンシティの実現に向けて、再生可能エネルギーの活用や地域における新たな付加価値の創造と地域循環への取り組みを進めていきます。



計画のテーマ

豊かな自然を未来につなぐ 持続的発展が可能な環境のまち 尾花沢



4 施策の柱と個別目標

施策の柱 1

ゼロカーボンシティの実現に向けた市民運動の展開

個別目標 1 市民のライフスタイルの変革に向けた意識改革を促します

- 市民一人ひとりや事業者が環境について積極的に考え、二酸化炭素削減のための行動に繋げることが大切です。行政においては、省エネ設備の計画的な導入や使用電力の削減、ペーパーレス化に率先して取り組みます。

個別目標 2 教育機関や生涯学習による環境教育を推進します

- 地球温暖化をはじめとした地球規模の問題から身の回りの様々な環境に関することに対して、子どもから大人まで、一人ひとりが身近に感じて学んでいけるよう、環境セミナーの実施や次世代エネルギーパークを活用した環境学習を推進します。

個別目標 3 市民・事業者・関係団体・行政の連携による取り組みを進めます

- 再生可能エネルギーの利活用に関する産学官の連携による取り組みや市内事業者への再生可能エネルギー、省エネルギー設備導入への支援に取り組みます。

施策の柱 2

再生可能エネルギーの推進と地域の活性化

個別目標 4 再生可能エネルギーを活用した施設・住宅等を推進します

- 住宅への太陽光発電設備と高気密高断熱住宅の推進、再生可能エネルギー設備導入への補助を行います。
- ZEH（ゼロエネルギーハウス）に雪対策を踏まえた「無雪化スマートハウス」の提案と推進を行います。

個別目標 5 再生可能エネルギーの地産地消と付加価値の地域循環を目指します

- 木質や牛糞等によるバイオマス発電等の新たなエネルギー供給に向けた産学官連携による取り組みを行います。

個別目標 6 電気自動車等の次世代カーの普及を推進します

- 電気自動車等の環境負荷の少ない次世代自動車の普及促進に積極的に取り組みます。

施策の柱 3

森林と水資源などの自然環境の保全

個別目標 7 荒廃地対策と森林整備、生態系の保全に努めます

- 間伐による森林整備の推進と森林組合や関係機関との連携により、市内における木質バイオマスの利活用による取り組みを行います。

個別目標 8 不法投棄等防止活動を強化し環境美化に努めます

- 不法投棄パトロールの実施や農業用廃プラスチック、ビニールの適正管理に向けた取り組みを行い、市内における環境美化と自然環境の保全に努めます。

個別目標 9 適正な生活排水処理を行い、清らかな河川と美しい水環境を保全します

- 公共下水道や農業集落排水への接続促進と単独浄化槽から合併浄化槽への切り替え促進を行い、河川等の水環境の保全に努めます。

個別目標 10 公害の未然防止と適正な指導に努めます

- 主要道路と周辺の騒音測定を継続的に実施し、騒音抑制対策に努めます。

施策の柱 4

ごみの削減と3Rの推進による循環型社会の構築

個別目標 11 ごみを出さないライフスタイルを推進します

- 生ごみ処理機（コンポスト）の購入補助やフードドライブの実施、食品ロス削減の取り組みを行います。

個別目標 12 ごみの分別強化とリサイクルを推進します

- プラスチックごみの分別やリサイクルに向けた取り組みと市民への周知を行います。
- フリーマーケット等の新たな仕組みづくりにより、市内における3Rの推進に取り組みます。

*3R（スリーアール）：リデュース（Reduce・廃棄物の発生抑制）、リユース（Reuse・再使用）、リサイクル（Recycle・再資源化）の頭文字のRをとって、3Rと総称する。

5 尾花沢市ゼロカーボンシティ宣言

令和3（2021）年5月1日より市内小中学校の電気が、電気の地産地消に取り組んでいるやまがた新電力からの供給に変わったことを契機に、5月6日に、尾花沢小学校でゼロカーボンシティ宣言式が行われました。

本市は、令和32（2050）年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて、再生可能エネルギーの活用とエネルギーの地産地消化に取り組むことを宣言しました。



ゼロカーボンシティ宣言式(令和3年5月6日)

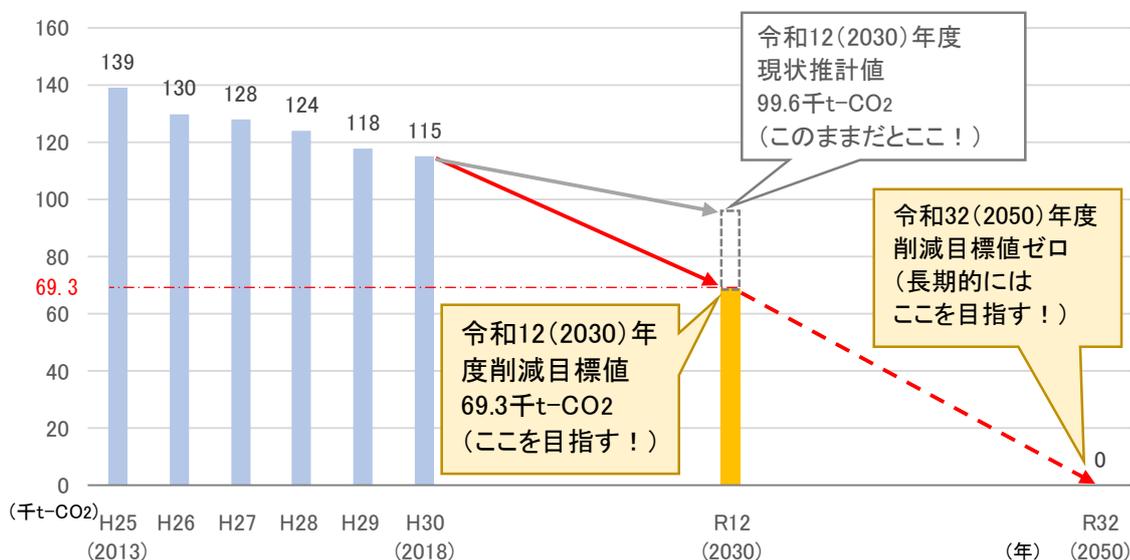
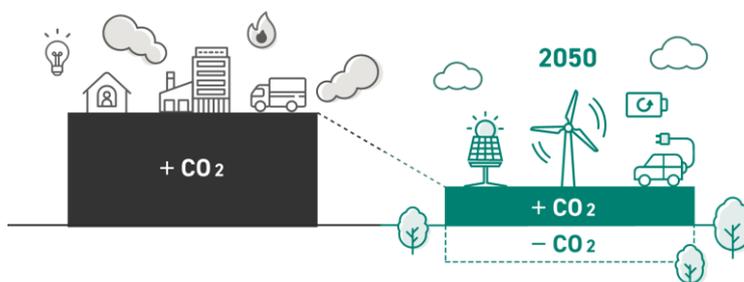


図 二酸化炭素排出量の削減目標

「ゼロカーボンシティ」とは

環境省では、「2050年に二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることを目指す旨を市長が公表した地方自治体」をゼロカーボンシティとしています。

二酸化炭素排出量実質ゼロとは、CO₂などの人為的な発生源による排出量と、森林等の吸収源による除去量との均衡を達成することです。達成のためには、二酸化炭素排出量の削減と森林等の吸収作用の保全と整備を推進していく必要があります。



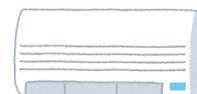
出典：環境省ホームページ
(省エネポータルサイト)

6 身近なゼロカーボンアクション集

本市におけるゼロカーボンシティの実現に向けて、環境問題を「自分ごと」として捉え、行政、市民、事業者がそれぞれの立場からできることを行動に移していくことが大切になります。この項目では、できることの身近な具体例を挙げてみました。一人ひとりの意識と行動が私たちの環境をより良く改善していくための原動力になります。これらを参考にして、すぐに取り組みのもの、今後の取り組みに向けてできることを考え、行動してみましょう。

身近な省エネ行動

東北地方の世帯当たりの年間 CO₂ 排出量は、令和2（2020）年度で4.19トンです。エネルギー別の使用割合では、電気と灯油で9割を占めており、電気が56.8%、灯油が33.4%となっています。



●エアコン

■ 夏の冷房時の室温は28℃を目安に。

(年間)

CO₂ **14.8** kg 削減 約 **820** 円 節約

■ 冬の暖房時の室温は20℃を目安に。

(年間)

CO₂ **25.9** kg 削減 約 **1,430** 円 節約

※ 冷房：外気温度31℃の時、エアコン（2.2kW）の冷房設定温度を27℃から28℃にした場合（使用時間：9時間/日）

※ 暖房：外気温度6℃の時、エアコン（2.2kW）の暖房設定温度を21℃から20℃にした場合（使用時間：9時間/日）

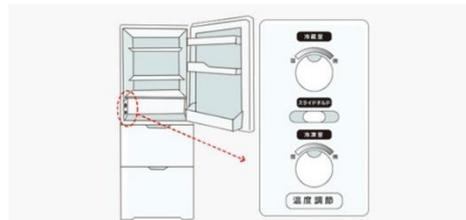
●冷蔵庫

■ 設定温度は適切に。

(年間)

CO₂ **30.1** kg 削減 約 **1,670** 円 節約

※ ※設定温度を「強」から「中」にした場合（周囲温度22℃）



出典：経済産業省 資源エネルギー庁ホームページ
(省エネポータルサイト)

●smart move

■ 環境への負荷を考慮し、状況に応じた最適な移動方法を選択する。

一人が1km 移動する時のCO₂排出量は、マイカーで **145** g、バスで **66** g、鉄道で **20** g

- ▶ 近くの移動を自転車や徒歩に変えるなら、CO₂ 排出量 0g
公共交通機関への変更でも、CO₂ 排出量は削減します。



●エコドライブ

■ 地球温暖化防止につながる運転を心がける。

エコドライブとは、燃料消費量やCO₂排出量を減らし、地球温暖化防止につなげる“運転技術”や“心がけ”です。

<取り組み例>

- ◆ 発進するときは、穏やかにアクセルを踏んで発進する。
- ◆ 車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転を行う。
- ◆ 不要な荷物はおろして運転する。



出典：環境省ホームページ
(COOL CHOICE)